～南出市長からのメッセージ～

泉大津市では、新型コロナワクチンを希望される方が円滑に接種できるように、地域の医師、薬剤師、看護師、事務員などの医療スタッフにご協力いただき、看護師を配置したコールセンターの設置やウェブ予約システムの導入など「安心して接種いただける体制」を整えているところです。

適切に情報を発信し、混乱のないよう進めていきたいと思っておりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

新型コロナワクチンの接種は強制ではありません。ご本人が希望する場合に限り接種を行うことになります。また、**受けない方に対して接種を強要することや、行動制限を求めるものでもなく、同調圧力や差別は決してあってはなりません。**

予防接種を受ける方には、予防接種による発症予防及び重症化予防に期待される効果と副反応のリスクの双方について理解した上で、自らの意思で接種を受けていただきたいと思います。なお、ワクチンは感染予防効果を期待できるものではありません。また、これまでのワクチンとは仕組みがまったく異なり、人体に実用化するのが初めての遺伝子ワクチンであり、**ワクチン接種による感染予防効果や中長期的な人体への影響については明らかになっていません。**よって、年代ごとの重症化率や死亡率等も下表「大阪府内の感染者の状況」をご参照の上、接種の判断をしていただけますと幸いです。

ワクチンの効果について

感染予防

接種した人が感染しない

↓

発症しない感染者が多数存在する新型コロナでは、実証が難しい

発症予防

発症者が減少する

（ファイザー社ワクチンでは有効性は95%）

重症化予防

重症患者が減少する

新型コロナワクチンで有効とされている効果

（効果の持続期間については調査中）

※2021（令和3）年2月15日「第19回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料1」より文章を抜粋

泉大津市民の新型コロナウイルス感染状況について

令和2年3月から発生した新型コロナウイルスの陽性者は、1年経過した令和3年3月1日現在、累計で322人、人口千人あたり約4人の感染状況となっております。（日本全体においてもほぼ同様の率になっています）

予防接種の普及により、発症する人や重症化する人は減少することが予想されますが、現在のところ接種した人が感染しないかどうかの実証は極めて難しいといわれてますので、接種後も感染予防のための心がけや、免疫力が維持向上される生活習慣に努めていただきますことを心からお願いいたします。

最後に、発熱等の有症状の方へのPCR検査体制や医療体制をはじめ、今回の新型コロナワクチン接種においても、多大なご協力をいただいております泉大津市医師会、泉大津市薬剤師会の皆さまに厚く感謝申し上げます。

大阪府内の感染者の状況
（R2.10.10 ～ R3.3.7 の集計）

年代	感染者数	重症化率	死亡率
20代	7,171	0.03%	0%
30代	4,739	0.30%	0.02%
40代	4,934	0.89%	0.06%
50代	5,065	2.84%	0.30%
60代	3,453	7.18%	1.51%
70代	3,719	12.15%	6.08%
80代	2,840	8.03%	14.19%
90代	908	2.86%	21.59%
100代	36	0%	27.78%

第9回大阪府新型コロナウイルス感染対策協議会資料より

新型コロナワクチンの副反応について

1．国内における新型コロナワクチンの副反応について

ワクチン接種は体内に異物を入れて免疫反応を誘導し免疫をつくることを目的として行われるため、効果とともに副反応が起こりえます。

令和３年２月から国内で行われている新型コロナワクチンの先行接種における１回目接種後の副反応の途中経過をみると、接種部位の痛みを感じた者の割合が最も多く、90％を超えていました。

これは、インフルエンザワクチンと比べても明らかに高く、また倦怠感（だるさ）や頭痛などの全身症状もやや多いという結果になっていました。

全体的に接種翌日に、症状が出る方が多くなっていました。
特に多かった接種部位の痛みは、接種3日後には多くの方が軽快されていました。

ワクチン副反応の比較（速報）

副反応		ファイザー社ワクチン（17,138 人）R3.3.11 現在	インフルエンザワクチン（22,112 人）2009 年
37.5℃以上の発熱		3.3%	3.1%
接種部位	赤くなる	13.8%	60.1%
	痛み	92.4%	43.8%
	腫れ	12.4%	36.0%
	熱をもつ	12.6%	28.2%
倦怠感		23.1%	19.0%
頭痛		21.3%	14.1%

厚生労働省資料より

2．重度の副反応（アナフィラキシー）について

アナフィラキシーとは、じんましんや赤み、かゆみなどの「皮膚の症状」、くしゃみや咳、息苦しさなどの「呼吸器の症状」、目のかゆみや唇の腫れなどの「粘膜の症状」、腹痛や嘔吐などの「消化器の症状」や血圧低下などの「循環器の症状」など複数の症状が短時間に全身にあらわれるアレルギー症状のことです。このアナフィラキシーによって、血圧の低下や意識障害などを引き起こし、場合によっては生命を脅かす危険な状態になることを「アナフィラキシーショック」といいます。

厚生労働省の報告によると、国内で2月17日~3月11日までに、医療機関から「アナフィラキシー疑い」として報告があったのは37人(同期間の接種10万人当たり20.4人に相当)。そのうち3月9日までに報告された17人のうち7人がアナフィラキシーであると専門家により判断されました。

ショックやアナフィラキシーが1回目接種で認められた場合、2回目の接種は受けられません。また、アナフィラキシーの既往や重度のアレルギー症状がある方は、1回目の接種前に必ずかかりつけ医にご相談したうえで、接種するかどうか決めてください。

3．新型コロナワクチンの健康被害救済制度について

予防接種は感染症を防ぐために重要なものですが、極めてまれに脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることがあります。万が一、ワクチン接種を受けた方に健康被害が生じた場合、対象となる予防接種と健康被害との間に因果関係があるかどうかを疾病・障害認定審査会で個別に審査し、因果関係が認定されると健康被害救済制度の給付が行われます。

▶▶詳しくは　予防接種　救済　検索